

## エジプトの文化財保存修復・管理の学際的研究

研究代表者 近藤 二郎  
(文学学術院 教授)

### 1. 研究課題

本プロジェクト研究では、現在、エジプト・アラブ共和国において継続実施しているメンフィス・ネクロポリスのギザ遺跡のクフ王の第2の船、アブ・シール南丘陵遺跡、ダハジュール北遺跡、テーベ西岸のアル=コーカ地区の貴族墓、王家の谷・西谷のアメンヘテプ3世墓の計5ヶ所の文化財をプロジェクトの拠点として位置づけ、各文化財の考古学、エジプト学、建築史学、形質人類学、分析化学などの学際的なアプローチを使いながら各遺跡および遺物の保存修復、遺跡管理の研究を推進することを課題としている。

### 2. 主な研究成果

#### 2.1 ギザ、クフ王の第2の船の復原プロジェクト

本プロジェクトは、ギザのクフ王の大ピラミッドの南側に埋納されている第2の木造船を取り上げ、修復し、復原することを目的とする。2013年度から部材の取り上げが開始され、保存修復、測量に着手した。2015年度においても、解体され船坑（ピット）に納められた部材の取り上げ作業と部材の保存修復作業を継続して実施した。2015年度で全体の約1/2の部材を取り上げ、1/3の部材の保存修復作業が終了している。また、長さが長い大型の部材の取り上げのための準備作業を実施した。このクフ王の第2の船は、復原作業が終了後に、現在、ギザに建設中の大エジプト博物館（GEM）に展示されることになっている。

1/2の部材を取り上げ、1/3の部材の保存修復を終えている。日でも作業が継続されている。現在までに全体の約1/2の部材を取り上げ、1/3の部材の保存修復を終えている。復原後には、現在建設中の大エジプト博物館に展示される予定である。

#### 2.2 アブ・シール南丘陵遺跡、イシスネフェルトの石棺の保存修復

アブ・シール南丘陵遺跡では2009年にラメセス2世の孫娘とみられるイシスネフェルトの墓が発見され、埋葬室から同人物の石棺が検出された。そこで、住友財団の助成を受け、石棺の保存修復作業を実施した。墓内における石棺の位置を移動することで作業の効率化をはかるとともに、数百個にのぼる石棺の破片を接合した。また、文字に使用されている青色顔料の固定作業を実施した。

#### 2.3 テーベ西岸、アル=コーカ地区岩窟墓の保存修復

2007年12月より、テーベ（現在のルクソール市）西岸のアル=コーカ地区にて岩窟墓の調査を開始し、同年に新王国時代第18王朝アメンヘテプ3世時代（前1380年頃）の高官ウセルハトの墓（第47号墓）を再発見し、発掘調査と保存修復作業を継続してきたが、2013年12月に「ビール醸造長」コンスウエムヘブの墓を発見している。2015年度には、科学研究費・基盤研究(A)（海外学術調査）、研究代表者：近藤二郎、研究課題：「エジプト、ルクソール西岸の新王国時代岩窟墓

の形成と発展に関する調査研究」、課題番号：15H02610、の助成を受け、壁画保存修復の専門家、壁画顔料の化学分析チーム、形質人類学者を新たに加えた調査隊を2015年12月から1月にかけて現地に派遣し、壁画の保存修復や顔料の化学分析などを実施した。

### 3. 共同研究者

吉村 作治 (東日本国際大学・学長)	中川 武 (理工学学術院・教授)
中井 泉 (東京理科大学・理学部・教授)	長谷川 奏 (総合研究機構・客員教授)
高宮いづみ (近畿大学・文芸学部・教授)	西本 真一 (日本工業大学・工学部・教授)
黒河内宏昌 (太陽の船復原研究所・教授)	柏木 裕之 (東日本国際大学・客員教授)
菊地 敬夫 (総合研究機構・招聘研究員)	藤田 礼子 (サイバー大学・専任講師)
河合 望 (高等研究所・准教授)	馬場 匡浩 (文学学術院・助教)
長屋 憲慶 (金沢大学・助教)	西坂 朗子 (総合研究機構・招聘研究員)
高橋 寿光 (東日本国際大学・客員講師)	矢澤 健 (東日本国際大学・客員講師)

### 4. 研究業績

#### 4.1 学術論文

近藤二郎「テーベ西岸の岩窟墓におけるアマルナ時代直前の変化」、『史観』第174冊、早稲田大学史学会、81～97頁、2016年3月。

近藤二郎・吉村作治・菊地敬夫・柏木裕之・河合 望・高橋寿光・竹野内恵太・福田莉紗「第8次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』22号、日本エジプト学会、113～148頁、2016年3月。

吉村作治・河合 望・近藤二郎・高宮いづみ・高橋寿光・竹野内恵太・山崎美奈子・福田莉紗「第23次アブ・シール南丘陵遺跡調査概報」、『エジプト学研究』22号、日本エジプト学会、15～28頁、2016年3月。

吉村作治・河合 望・近藤二郎・高宮いづみ・柏木裕之・高橋寿光・米山由夏・松永修平・山崎世理愛「第24次アブ・シール南丘陵遺跡調査概報」、『エジプト学研究』22号、日本エジプト学会、29～28頁、2016年3月。

吉村作治・矢澤 健・近藤二郎・柏木裕之・竹野内恵太・山崎世理愛「エジプト ダハシュール北遺跡調査報告—第22次調査—」、『エジプト学研究』22号、日本エジプト学会、91～112頁、2016年3月。

苅谷浩子・柏木裕之・高橋寿光・河合 望・吉村作治「アブ・シール南丘陵遺跡第23次・第24次調査保存修復作業」、『エジプト学研究』22号、日本エジプト学会、41～50頁、2016年3月。

黒河内宏昌・吉村作治「2015年 太陽の船プロジェクト 活動報告」、『エジプト学研究』22号、日本エジプト学会、5～13頁、2016年3月。

S. Yoshimura and M. Baba, 2015. Recent Discoveries of intact tombs at Dahshur North: Burial customs of the Middle and New Kingdoms. in Kousoulis P., Lazardidis N. (eds.), Proceedings of the Tenth International Congress of Egyptologists, University of the Aegean, Rhodes, 22-29 May 2008, *Orientalia Lovaniensia Analecta* 241, Peeters: 545-556.

M. Baba, 2015. Intact Middle Kingdom Burials of Senu found at Dahshur North. *Quest for the Dream of the Pharaohs: Studies in Honour of Sakuji Yoshimura*, Cahier No 43: 35-48.

M. Baba and K. Yazawa, 2015. Burial Assemblages of the Late Middle Kingdom Shaft-tombs in Dahshur North. G. Miniaci and W. Grajetzki (eds. ), The World of Middle Kingdom Egypt (2000-1550 BC) I, Golden House Publications: 1-24.

N. Kawai, 2015. The Administrators and Notables in Nubia under Tutankhamun Lockwood Press, Atlanta, Festschrift in honor of Betsy Bryan.

#### 4.2 学会および社会的活動

第4回太陽の船シンポジウム「今！太陽の船プロジェクトは・・・」早稲田大学小野記念講堂、2015年7月13日(月)、エジプト学研究所、東日本国際大学エジプト考古学研究所、日本エジプト学会、NPO 法人太陽の船復原研究所

エジプト・フォーラム 24「早大エジプト発掘 50年」早稲田大学国際会議場井深ホール、2015年11月28日(土)、エジプト学研究所、東日本国際大学エジプト考古学研究所、日本エジプト学会、企画展「早稲田大学エジプト調査 50年のあゆみ」早稲田大学會津八一記念博物館、2015年12月～2016年1月、エジプト学研究所

### 5. 研究活動の課題と展望

本研究で目的とするエジプト・アラブ共和国における文化財の保存修復作業は、政治状況の変化などに左右しながらも、調査を継続することが出来ているが、テーベ西岸にある王家の谷・西谷のアメンヘテプ3世墓の修復作業は最後の段階で2015年度も作業は中断している。また、テーベ西岸のアル＝コーカ地区における岩窟墓群の調査においては、第18王朝のウセルハトの墓(第47号墓)では、前室の天井部が完全に崩落しており、岩盤工学の専門家を招いて次年度以降の本格的な復原作業計画の策定を実施したい。さらに、2013年12月に発見された新王国ラメセス朝時代の「ビール醸造長」のコンスウエムヘブの墓は、本来の墓入口部が依然として厚い砂礫の堆積に覆わ



れているため、墓内のクリーニングや壁面の保存修復作業や墓壁体の補強工事などを本格的に実施することが出来ないため、次年度においては、例年よりも長い期間をかけて、集中的に堆積砂礫の除去作業を実施し、コンスウエムヘブ墓の保存修復作業が可能な環境を整えたい。

コンスウエムヘブ墓・前室の壁画の現況(2016年12月)